

NEC国内AIモデル cotomi の知財実務適用評価

エグゼクティブサマリー

NECの「cotomi」は、日本語処理性能・速度・業務システム連携・提供形態の柔軟性を前面に出した、国内エンタープライズ向け生成AI群です。2023年7月に名称を公表し、2023年12月にはマネージドAPIサービスを中核とする生成AI事業戦略を示し、2024年4月に「cotomi Pro / cotomi Light」を公開、2024年後半には高精度化・ハルシネーション対策・図表文脈理解・AIエージェント連携を拡充しました。2025年以降は、業務特化モデル・MCP準拠・cotomi Act・cotomi v3に発展しており、2026年時点のNEC資料では、AI Platform Serviceの中にAPI/Agent API、RAG、ガードレール、MCPサーバ、モデル切替、オンプレ/クラウド運用を集約する方向が示されています。 ¹

知財実務との相性は、日本語文書中心・機密性重視・RAG前提・図表混在文書の処理という条件ではかなり良好です。とくに、社内先行技術資料の横断検索、公開文献の要約、先行技術分類、ランドスケープの叩き台、契約条項抽出、社内ナレッジQAには適性があります。一方で、特許性／新規性の法的判断、FTOの最終結論、請求項の最終起案のような高リスク領域では、公開情報上、cotomi専用の特許・法務ベンチマークや、学習データ来歴・出力権利・再学習不使用条件の詳細が十分には見えず、自律利用は推奨しにくいというのが結論です。NEC自身も、ハルシネーション対策、根拠提示、図表理解、AIガバナンスを別機能として拡充しており、逆に言えば単体LLMだけで完結させるより、周辺ガードレール込みで使う前提の製品思想が強いと読めます。 ²

法務・知財の観点では、最大の論点は公開情報の透明性ギャップです。NEC公開資料では、Pro/Lightについて「学習データやアーキテクチャを刷新」「大規模な日本語辞書（トークナイザ）」「約4万人の社員の対話履歴を解析・活用」までは確認できますが、学習データ総量、ソース内訳、言語ミックス、各版の正確なパラメータ数、出力権利、再学習への利用有無、保存期間、公開約款は一般公開ベースでは不明な点が多いです。学術論文では「cotomi」を13B級の軽量LLMと説明していますが、これは少なくとも2024年前半時点の説明であり、Pro/Light/v3の各版に直ちに対応づけられる公式開示ではありません。したがって、契約交渉と技術デューデリジェンスが導入可否の主要条件になります。 ³

最終判断としては、条件付きGoです。推奨するのは、閉域または専用環境のcotomiを中心にした限定パイロットであり、対象業務はまず、先行技術検索補助、公開公報／明細書要約、分類補助、契約レビューの条項抽出・差分要約に絞るべきです。逆に、FTO意見、特許性の最終判断、請求項の最終確定、営業秘密の公衆クラウド投入は、パイロット初期のスコープから外するのが妥当です。文化庁の整理でも、AI学習段階と生成・利用段階は別に評価され、出力利用時の著作権侵害は別途問題となり得ますし、個人情報保護委員会は生成AI利用時の個人情報入力について利用目的・必要範囲・要配慮情報の扱いに注意喚起を行っています。 ⁴

cotomiの最新状況

まず押さえるべきなのは、cotomiが単一モデル名というより、NECの生成AI群とその業務実装機能のブランドとして拡張している点です。2023年の名称公表と事業戦略の段階から、2024年のPro/Light、2024年後半の性能強化・AIエージェント・図表文脈理解、2025年の業務特化型LLM・cotomi Act・v3へと、“モデルそのもの”と“業務化の周辺技術”が並走して拡大しています。 ⁵

時期	公開された主なマイルストーン	知財実務への示唆	主な出典
2023年7月	「cotomi」の名称公表。NECの生成AI群のブランドとして位置付け。	国産・企業向けの長期ラインとして継続投資前提。	6
2023年12月	マネージドAPIサービスを中核とする生成AI事業戦略を発表。	API経由の組込み可能性が早期から前提。	7
2024年4月	「cotomi Pro / cotomi Light」を公開。学習データとアーキテクチャを刷新。RAGで未FT時GPT-3.5超、FT後GPT-4超、レスポンスは約1/15と説明。	日本語RAG中心の知財検索・要約用途に有望。	8
2024年6月販売	「cotomi Appliance Server」を販売開始。cotomi Light搭載、NVIDIA GPU、推論モデル／推論+FTモデル、オンプレ対応。	機密性の高い発明資料や契約書を閉域で扱いやすい。	9
2024年9月	ハルシネーション対策機能を提供開始。根拠文比較・矛盾箇所提示。Azure OpenAIにも適用可能。	出典付き回答・要約検証が必須のIP実務と親和。	10
2024年11月	cotomi性能強化。2024年12月から順次提供。Japanese MT-Benchで世界トップ級精度、約2倍速度、GPU演算効率2倍。	高頻度検索や大量レビューで運用コスト優位の可能性。	11
2024年11月	図表文脈理解サービス、AIエージェント提供開始。	特許明細書の図面参照、フロー図、契約別紙の表を含む文書処理に効く。	12
2025年4月	三井住友海上向けにcotomiベースの業務特化型LLMをAzure OpenAIと組合せ展開。	“cotomi単独”よりも、用途別のハイブリッド実装が現実的。	13
2025年8月	「cotomi Act」を開発。WebArenaで80.4%を記録し人間成功率78.2%超と発表。	将来的なIPワークフロー自動操作の可能性。現時点では慎重導入。	14
2025年12月	さくらのAI Engineで「cotomi v3」を提供開始。Function Calling対応、国内開発・運用を訴求。	エージェント連携や国内実行基盤の選択肢が拡大。	15
2026年4月	NEC資料でAI Platform Serviceを提示。API/Agent API、MCP、RAG管理、ガードレール、オンプレ/クラウド統合、LLM v3、2028年以降のAIスパコン増強を提示。	今後は「cotomi単体」より「プラットフォーム一体」で評価すべき。	16

技術仕様で重要なのは、**公開情報のある項目とない項目を切り分ける**ことです。NEC公式に確認できるのは、Pro/Lightが**学習データとアーキテクチャを刷新**したこと、**速度と性能の両立を学習方式・アーキテクチャ・大規模日本語辞書（トークナイザ）**で実現したこと、社内約4万人の利用履歴を解析・活用して現実的ユースケース性能を上げたことです。一方で、**総学習トークン数、コーパス構成、言語混合比、パラメータ数、MoE/Denseなどの詳細設計**は公開資料では確認できません。学术论文では「cotomi」を**13Bパラメータの軽量LLM**と説明していますが、これは少なくとも旧世代寄りの公開説明であり、Pro/Light/v3のモデルサイズを公的に確定させる情報ではありません。 17

機能面では、**NLPは強い**と言ってよい一方、**コードとマルチモーダルは“周辺技術込み”**で評価する必要があります。NLPについては、文書要約・論理推論・質問応答に強く、ELYZA Tasks 100とJapanese MT-Benchで上位性能を示しています。コードについては、AIエージェント文脈で**プログラム生成・実行**が明示され、v3で

は**Function Calling**が示されていますが、公開のコード特化ベンチマークは見当たりません。マルチモーダルについては、ベースモデル単体のネイティブ画像理解性能よりも、**図表文脈理解サービスを組み合わせて図表・レイアウト文書を扱う方向が前面に出ています**。したがって、知財文書で言えば、**特許公報本文・契約本文には強いが、図面・表・フロー図は周辺機能を組み合わせる時に本領を発揮する**、という理解が適切です。 18

提供形態は、cotomiの実務評価で非常に大きな強みです。NEC公式ページは**専用ハードウェア、データセンター、APIサービス等の柔軟な提供形態**を掲げており、個別のプレスリリースでは**オンプレアプライアンス**、大塚商会との『**美琴 powered by cotomi**』、さくらのAI Engine上の**国内API基盤**、そして2026年資料上の**AI Platform Serviceでのオンプレ/クラウド統合**が確認できます。狭義のエッジ端末への組込みは公開情報では確認できませんが、**拠点内アプライアンス設置**という意味では、知財部門や研究所のローカル環境に寄せた導入は十分に現実的です。 19

API/SDK/価格/ライセンスの公開度は、率直に言って**グローバル大手より低い**です。API提供そのものは、2023年時点の**マネージドAPIサービス**、2026年資料上の**API/Agent API**、パートナー基盤での提供から確認できますが、一般公開された詳細なSDKドキュメントやGitHub、セルフサービスの価格表は調査範囲では確認できませんでした。価格については、**NEC公式の一般公開価格は確認できず**、さくらのAI Engineでも**承認された顧客にのみ価格表示**とされています。したがって、cotomiは**企業個別見積・契約前提の商流**であり、知財部門が導入検討する際も、**法務・調達・情報システムを巻き込んだ見積取得が必須**です。 20

NEC以外の主要代替候補と並べると、cotomiの位置づけはかなり明確になります。**OpenAIとAnthropicは公開情報の透明性、価格、APIドキュメント、データ権利条項で優位**です。他方で、cotomiは**日本語実務・オンプレ性・国内提供形態・NECのSI/業種知見との一体性**が優位です。NTT tsuzumi 2は**軽量・1GPU・日本語・Azure展開が強く**、Fujitsu Takaneは**セキュアな私設環境と業界特化**を前面に出しています。つまり、IP部門での選択は、**“最高性能の汎用推論”を取るか、“日本語+機密+実装一体”を取るかのトレードオフ**です。 21

モデル	日本語実務適性	提供形態	マルチモーダル/コード	公開データ権利方針	価格公開度	知財実務への総評	主な公開根拠
NEC cotomi	高い。日本語性能を最重要訴求。	オンプレ、専用HW、データセンター、API、国内基盤。	図表理解は強いが、ベースモデルの公開仕様は限定的。コードはエージェント/Function Calling中心。	公開資料上は詳細限定的。個別契約確認が必要。	低い。一般公開価格を確認できず。	日本語・機密・業務実装重視なら有力。透明性は要補完。	22

モデル	日本語実務適性	提供形態	マルチモーダル/コード	公開データ権利方針	価格公開度	知財実務への総評	主な公開根拠
OpenAI	高いが日本語特化ではない。	SaaS/API中心。公開情報上、オンプレ製品は前面に出ない。	強い。マルチモーダル公開、広いコンテキスト。	事業データは既定で学習不使用、入出力権利保持を明示。	高い。API価格公開。	高性能・透明性は強いが、機密データ運用は契約・設定前提。	23
Anthropic Claude	高い。多言語対応。	API、AWS、Bedrock、Vertex AI、Microsoft Foundry。	テキスト+画像入力、長コンテキスト、強い推論・コード。	Customer Contentで学習しないことを明示。	高い。API価格公開。	長文推論・法務思考補助に強いが、国内閉域実装はクラウド前提。	24
NTT tsuzumi 2	高い。金融・自治体・医療知識を強化。	1GPU、オンプレ適性、Azure提供。	図表読解を含む方向。軽量。	公開価格は限定的。Azure Marketplace参照。	中程度。Marketplace依存。	軽量・国産・オンプレ性が魅力。cotomiの有力な国内代替。	25
Fujitsu Takane	高い。JGLUE世界級、日本語特化。	Kozuchi/DI PaaS、Nutanixで私設環境、オンプレ/公衆クラウド。	業界特化AI/KG拡張RAGを前面。	公開価格は限定的。	低～中。問い合わせ前提。	特化業務・私設環境・高精度を重視する企業向け。	26

法務・知財・ライセンス分析

以下は法的助言ではなく、**契約締結前の論点整理**です。知財実務でcotomiを使う場合、技術性能よりも先に、**契約・データ来歴・出力権利・ログの扱い**を詰める必要があります。2026年のAI事業者ガイドラインは、生成AIに伴うリスクとして**知的財産権侵害、偽情報・誤情報**等を明示しており、AIガバナンスの構築を求めています。²⁷

最初の論点は**公開約款・出力権利・再学習条件の透明性**です。OpenAIは事業データについて**既定で学習不使用、入力と出力の権利は顧客側**と公開していますし、Anthropicも商用規約で**Customer Contentでモデルを学習しないこと**、入力・出力の権利帰属を明示しています。これに対して、cotomiの一般公開資料では、サービスページ・プレスリリース・パートナー提供告知は多数あるものの、**公開文書としての詳細なサービス約款、出力の権利帰属、再学習不使用保証、保存期間、監査権限**は十分に確認できません。知財部門としては、この差は実務上かなり大きく、**NECとの契約で明文化しない限り、運用基準に組み込みにくい**と見るべきです。²⁸

次に**データ来歴と著作権リスク**です。文化庁は「AIと著作権について」で、AI学習段階では著作権法30条の4等の枠組みにより、情報解析目的の利用は広く許容され得る一方、**権利者の利益を不当に害する場合**や、生成・利用段階での**類似性・依拠性**がある場合には別途侵害が問題になり得ると整理しています。また、この整理自体は法的拘束力を持つものではなく、今後の事例蓄積が重要であるとも明記しています。cotomiは学習データ刷新や内部対話履歴活用を公表していますが、**どの著作物群がどの条件で学習に使われたか**は公開されていません。したがって、**契約条項の自動起草や非特許文献の要約**のように表現依存性が高い業務ほど、出典固定・類似表現チェック・人手レビューを強める必要があります。²⁹

知財実務に特有の観点では、**特許公報そのものの利用は比較的扱いやすくても、契約・論文・技術マニュアル・市場レポートは権利処理の粒度が違う**ことに注意が必要です。特許公報は公開文献として検索・引用運用に馴染みますが、契約条項や解説文、非特許文献の文章表現は、そのまま出力に混じると著作権・契約上の利用制限に触れやすくなります。NECが提供するハルシネーション対策機能は、**元文と生成文の比較・齟齬提示・根拠提示**を行えるため、IP用途ではこの機能を“あると便利”ではなく、**標準必須**として扱うのが安全です。¹⁰

個人情報・営業秘密の論点も重いです。個人情報保護委員会は、生成AIサービス利用に関して、個人情報取扱事業者が個人情報を含むプロンプトを入力する場合、**特定された利用目的の達成に必要な範囲内で行うこと**、要配慮個人情報の扱いに留意することなどを注意喚起しています。知財部門では、発明者情報、従業員評価、共同研究先情報、未公開M&A情報、ソースコード断片、未出願発明ノートなどが混在しやすいため、**営業秘密・機微個人情報・未公開案件は原則としてオンプレまたは専用閉域のみ**、公開クラウドに出すのは匿名化・要約化・秘匿化後の派生データだけ、というルールが必要です。NECはオンプレアプライアンスや閉域活用を打ち出しており、ここはcotomiの優位点です。³⁰

輸出管理・国外提供も確認が必要です。日本では外為法が**物品の輸出と技術の提供**を規制しており、METIは、一定の技術移転には許可が必要であること、また**residentからnon-residentへの技術移転**も、いわゆるdeemed exportとして管理対象になり得ることを説明しています。さらに、BISはU.S.-originおよび一定のforeign-producedな物品・ソフトウェア・技術に対するEARを運用しており、先端GPU等の対中輸出許可方針は2025～2026年にも更新されています。cotomi Appliance Serverは**NVIDIA GPU**を利用するため、海外拠点展開や非居住者アクセス、特定国向け提供では、**モデルだけでなくハード・クラウド・再輸出規制**まで見なければなりません。³¹

結論として、cotomiを知財業務で使うなら、NECとの契約には少なくとも、**入力・出力の権利帰属、学習への再利用禁止、保存期間、削除SLA、ログの取扱い、サブプロセッサ、データ所在地、モデル更新通知、監査ログ、インシデント通知、補償・責任制限、国外移転と輸出管理協力**を入れるべきです。これが公開約款で

既に表示されるOpenAI/Anthropicに比べ、cotomiは契約交渉で補うべき項目が多いというのが、法務・知財上の率直な評価です。 ³²

IPワークフローへの適用評価

実務適性を一言で言えば、cotomiは「出典が固定できる日本語文書処理」には強く、「法的結論の自律化」にはまだ慎重が妥当です。根拠は、NECが強みとして公表しているのが日本語性能、高速性、RAG適性、図表文脈理解、エージェント連携、ハルシネーション対策である一方、公開ベースでは特許専用ベンチマーク、法務ベンチマーク、出力権利条項、学習来歴の詳細が不足しているためです。 ³³

ワークフロー	適用適性	精度期待	信頼性	ハルシネーション	秘密性要求	連携工数	必要な人手関与	推奨ガードレール
特許先行技術調査	中～高	中	中	中	高	高	高	公開文献・社内文献を分離。出典必須。回答本文よりも「検索候補と根拠提示」を優先。
請求項ドラフティング	中	中～低	低	高	最高	中	弁理士必須	最終文案作成ではなく、論点整理・バリエーション出しに限定。表現の類似チェック必須。
特許性／新規性分析	中～低	低～中	低	高	最高	高	弁理士必須	AIは「引用対比表の下書き」まで。結論欄は人間が記載。
FTO	低	低	低	非常に高い	最高	非常に高い	弁理士・弁護士必須	AIはクレーム要素抽出・製品仕様整理・引用候補挙まで。法的意見は不可。
先行技術分類	高	中～高	中～高	低～中	中	中	中	ゴールドラベル検証、閾値未満は人手回送。用途別チューニングが有効。
先行技術リトリバル	高	中～高	中	中	高	高	中～高	ベクトル+キーワードのハイブリッド検索、再ランキング、引用固定。
パテントランドスケープ	中～高	中	中	中	中	高	中～高	集計ロジックの再現性を確保。グラフ/表は元データを保存。

ワークフロー	適用適性	精度期待	信頼性	ハルシネーション	秘密性要求	連携工数	必要な人手関与	推奨ガードレール
契約レビュー	中～高	中～高	中	中	最高	中	法務レビュー必須	条項抽出、赤旗抽出、差分要約に限定。法的結論・交渉方針は人間。
営業秘密取扱い	条件付き	技術性能より運用依存	運用依存	主要論点ではない	最高	高	高	オンプレ/閉域限定、外部接続遮断、DLP、監査ログ、短期保持、案件別アクセス制御。

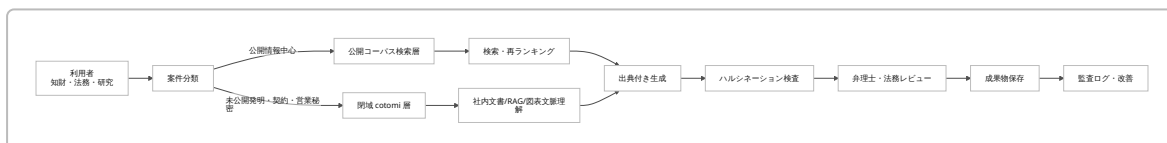
この表の読み方として重要なのは、**cotomiに向くのは「検索・抽出・整理・比較・要約」**であり、向きにくいのは**「法的評価の確定」「侵害判断の結論」「権利範囲の最終設計」**だという点です。とくにFTOは、クレーム解釈、均等論、包袋禁反言、国別法制、製品仕様の確度、権利存続・失効状態まで絡むため、たとえGPT級モデルでも難しく、cotomiの公開仕様からしても**自律判断は過大期待**です。逆に、分類・リトリバル・ランドスケープのように、**大量文書を相対比較して人間の判断を前倒しするタスク**では、cotomiの高速性と日本語適性はかなり活かせます。 34

知財実務におけるcotomiの差別化ポイントは、**RAG前提の企業利用と図表混在文書への対応**です。特許明細書や技術契約は、本文だけでなく、実施形態図、フローチャート、機能ブロック図、別表、定義表、仕様表に意味が埋まっています。NECの図表文脈理解サービスは、位置関係を含む文脈を保ったまま読み取ることを訴求しており、これは**図面・表が多い特許／技術文書には相性が良い**です。例えば、請求項ドラフティングそのものにはまだ慎重であるべきですが、**図と本文の差分把握、図面参照の説明抽出、仕様表の比較**では、他の純テキスト中心導入より有利に働く可能性があります。 35

一方で、**特許専用評価の不在は本当に重い**です。NECは汎用ベンチマーク、日本語ベンチマーク、RAG性能、エージェント性能を示していますが、公開の範囲では、**特許検索Recall、非特許文献混在検索、クレーム要素抽出精度、契約レビューの誤検知率**のような知財実務KPIは出ていません。したがって、導入の可否はベンダー説明ではなく、**自社ゴールドデータでの再現評価**で決める必要があります。ここを飛ばすと、PoCでは見栄えが良くても、本番ではレビュー負荷だけ増える、というよくある失敗に陥ります。 36

実装計画

推奨する導入方式は、**cotomi中心の二層構成**です。第一層は、**機密案件向けの閉域 cotomi 環境**で、未公開発明、契約ドラフト、共同研究関連文書、発明提案書、ソースコード断片、係争案件メモなどを扱います。第二層は、必要に応じて、**公開情報のみを扱う外部モデルまたは追加モデル層**で、公開特許・公開論文・競合IRなどの広域探索や高度推論を補います。NECの2026年資料は、**BYOM、モデル切替、API/Agent API、MCPサーバ、RAG管理、ガードレール**を含む統合基盤を示しており、この二層構成と整合的です。 37



セキュリティ設計は、**モデル選定より重要**です。最低限、案件単位のRBAC、SSO/MFA、ベクトルDBの案件分離、暗号化、プロンプトテンプレート管理、出力保存ポリシー、DLP、監査ログ、管理者権限の分離が必要

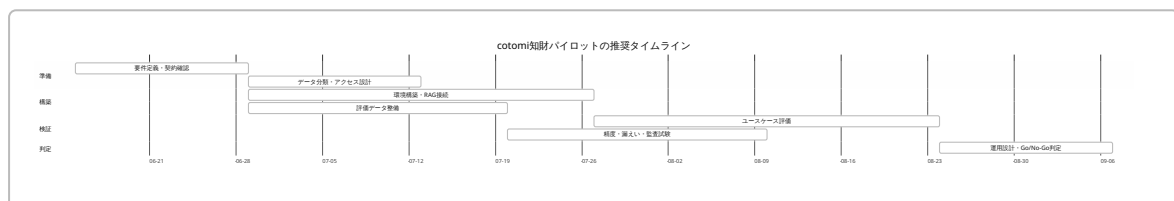
です。NEC資料は、AI Platform Serviceに**多要素認証、監査ログ取得、プロンプト管理、ユーザ管理、グループ管理、モデルガードレール、エージェントガードレール、秘匿化問合せ、ハルシネーション防止**を含める構想を示しており、知財部門で求める統制と方向性は一致しています。 38

データ取扱ポリシーは、少なくとも**四区分**で設計すべきです。すなわち、**公開情報、社内限定情報、機微個人情報を含む情報、営業秘密／未公開発明**です。公開情報は幅広い検索に使うべく、社内限定は閉域RAGまで、機微個人情報は必要最小限・匿名化後、営業秘密／未公開発明は原則オンプレのみ、が基準になります。個人情報保護委員会の注意喚起と、NECのオンプレ/閉域提供を合わせると、この区分はかなり合理的です。 39

検証手順は、**PoCらしく軽くやる**のではなく、知財業務に合わせて定量試験を作るべきです。最低限、①先行技術検索のRecall@kとnDCG、②分類精度、③契約条項抽出の再現率、④出典なし断定の発生率、⑤レビュー時間短縮率、⑥誤引用率、⑦データ漏えいレッドチーム試験、⑧モデル更新後の回帰試験、を持つべきです。NECがハルシネーション対策やRAG強化を打ち出しているからこそ、評価指標も**“自由対話の満足度”**ではなく、“**根拠付き精度**”に寄せるべきです。 40

コストは、**NECの公開価格が一般開示されていないため、ここでは導入方式別の仮置き**として示します。低位シナリオは、**APIまたは国内推論基盤を用いた限定PoC**で、対象は2業務程度、利用者20~30名、追加学習なし、評価データ作成とレビュー込みで**500万~1,500万円程度**を想定します。中位シナリオは、**閉域または小規模オンプレ+RAG+監査ログ**で3~4業務、部門内本番準備まで含めて**2,000万~5,000万円程度**。高位シナリオは、**HA構成のオンプレ本番、図表理解、複数DB接続、モデル評価運用、業務特化追加学習、全社ガバナンス設計**まで含めて**8,000万円~2億円超**を見込むのが実務的です。これは**NEC見積**ではなく、**本レポートの概算**であり、実際にはハード選定・SI範囲・保守SLA・セキュリティ要件で大きく変動します。公開価格が必要な場合、OpenAI/Anthropicは公表価格がありますが、cotomiは個別見積前提です。 41

パイロットは、準備からGo/No-Go判定まで**12~16週間**が現実的です。特に時間がかかるのは、モデル接続そのものではなく、**文書棚卸し、アクセス権、評価データ作成、レビュー手順、契約条項確認**です。NECのAI事業者向け構想自体も、単なるモデル提供というより**AI Platform Serviceとしての運用・監視・ガバナンス**を重視しているため、導入側もその前提で進めるべきです。 42



リスクと緩和策

リスクは、**技術・法務・運用**の三層で見た方が整理しやすいです。AI事業者ガイドラインは、生成AIに伴うリスクとして**知財侵害や誤情報**を挙げており、NEC自身もハルシネーション対策やガードレールを拡充しています。つまり、cotomi導入において重要なのは「**リスクがあるか**」ではなく、**どのリスクをどこまで支配可能か**です。 43

区分	主要リスク	なぜ起きるか	緩和策
技術	出典のない断定、誤引用、取り違え	汎用LLMの生成特性。RAGの検索漏れやランキング不全。	根拠必須出力、回答前のソース固定、ハルシネーション検査、回帰試験。

区分	主要リスク	なぜ起きるか	緩和策
技術	特許・契約の専門評価での精度不足	公開ベンチマークが汎用中心。IP専用評価が不足。	自社ゴールドデータ評価、ワークフロー限定、最終判断は専門家。
技術	図表や複合文書の誤解釈	本文以外の意味が大きい。	図表文脈理解機能の活用、図面付き検証データでの試験。
法務	学習データ来歴不透明による説明責任不足	NEC公開情報が限定的。	契約でデータ来歴説明、再学習条件、保証範囲、補償条項を要求。
法務	個人情報・営業秘密の漏えい	プロンプト投入時のガバナンス不備。	オンプレ/閉域限定、匿名化、DLP、短期保持、監査ログ。
法務	国外提供・ハード再輸出の規制抵触	外為法・EAR・GPU規制。	輸出管理レビュー、非居住者アクセス確認、対象国運用ルール。
運用	ユーザーの過信	文章がもっともらしい。	UI上で「法的結論ではない」を明示、レビュー承認フロー必須。
運用	プロンプト・テンプレートの野良化	部門ごとの属人運用。	プロンプト管理、承認済テンプレート、変更管理、監査。
運用	ROI不達	検索・レビューのボトルネックを見誤る。	低リスク高頻度業務から着手し、時間削減を定量測定。

とくに重要なのは、cotomiの弱みは“性能不足”より“透明性不足”だという点です。日本語性能や速度はむしろ強いのですが、知財部門が説明責任を負う場面では、「なぜそう答えたか」「どのデータに基づくか」「そのデータはどこから来たか」が問われます。OpenAIやAnthropicが公開しているデータ権利・事業データ不学習の明示と比べると、cotomiは契約で詰める余地が大きい。したがって、リスク緩和の中心は、モデル切替ではなく、**契約、RAG、監査、レビュー、データ分類**です。 44

推奨事項とパイロット設計

結論は、**限定スコープでのGo、無制限展開はNo-Go**です。より具体的には、**知財・法務の補助ツールとしての導入はGo、法的評価を自律実行させる導入はNo-Go**です。cotomiは、日本語・高速・オンプレ・図表理解・RAG適性という点で、知財部門の実務環境にかなり噛み合います。しかし、学習来歴、出力権利、再学習不使用、保存期間、IP特化ベンチマークの不足が残る以上、“**人間の専門判断を置き換える**”のではなく、“**専門家の前工程を圧縮する**”位置づけが適切です。 45

推奨パイロットの対象業務は四つです。第一に、**先行技術リトリバルと候補要約**。第二に、**公開公報・社内技術文書・会議メモの要約と比較**。第三に、**先行技術分類とランドスケープの叩き台作成**。第四に、**契約条項抽出・差分比較・赤旗抽出**です。これらは、効果が出やすく、かつ最終判断を人間が保持しやすい領域です。逆に、初期パイロットから外すべきなのは、**FTO、特許性の最終判断、請求項の確定、営業秘密の公開クラウド送信**です。 46

成功指標は、単に「便利だったか」では不十分です。最低限、**検索Recall@20、出典付き回答率、誤引用率、レビュー時間削減率、ユーザー受容率、重大漏えいゼロ、回帰試験合格率**を持つべきです。目安としては、先行技術リトリバルで**Recall@20 80%以上、出典付き回答率95%以上、出典なし断定5%未満、契約レビューの一次読解時間30%以上削減、重大情報漏えいゼロ**をGo条件に置くのが妥当です。これらは公開ベンチマークではなく、**貴社のデータで判定すべき社内基準**です。 40

NECに対して、パイロット開始前に確認すべき質問も明確です。具体的には、**学習データカテゴリの説明、出力権利、プロンプト/出力の保存期間、再学習有無、サブプロセッサ、障害時ログ閲覧の条件、モデル更新通知、評価支援、輸出管理上の留意点**です。これらに対して明確な文書回答が得られるなら、cotomiは知財部門で十分に検証する価値があります。逆に、ここが曖昧なままなら、技術的に良くても本番導入は見送るべきです。 ⁴⁷

最終提言を簡潔にまとめると、**未公開発明と契約を扱う日本企業の知財部門にとって、cotomiは“かなり有望だが、契約と評価設計を飛ばしてはいけないモデル”**です。日本語性、オンプレ適性、業務実装力は大きな強みです。反対に、透明性、公開条件、IP専用評価の不足は弱みです。したがって、意思決定としては、「**NEC cotomiを主軸に、閉域RAG型の知財補助基盤を3か月で検証し、FTOや最終法的判断は対象外とする**」が最も現実的で、リスク調整後の期待値が高い選択です。 ⁴⁸

主要出典URL

[NEC公式]

<https://jpn.nec.com/LLM/index.html>
<https://jpn.nec.com/LLM/cotomi.html>
<https://jpn.nec.com/techrep/journal/g23/n02/230203.html>
https://jpn.nec.com/press/202312/20231215_02.html
https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_01.html
https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_02.html
https://jpn.nec.com/press/202409/20240918_04.html
https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_01.html
https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_02.html
https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_03.html
https://jpn.nec.com/press/202501/20250128_01.html
https://jpn.nec.com/press/202504/20250423_01.html
https://jpn.nec.com/press/202508/20250827_02.html
<https://jpn.nec.com/gpu/cotomi/index.html>
<https://jpn.nec.com/press/202604/images/2402-01-01.pdf>

[NEC関連・国内提供/実装]

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/information/announcements/2025/12/02/1968222225/>
https://jpn.nec.com/ad/onlinetv/cotomi_AddFunction.html

[学術・技術補足]

<https://arxiv.org/html/2404.12760v1>

[日本の法務・ガイドライン]

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/pdf/94037901_01.pdf
https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/
https://www.ppc.go.jp/files/pdf/230602_kouhou_houdou.pdf
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20260331_1.pdf
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_2.pdf
<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/securityexportcontrol1.html>
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/law_document/minashi/en_daigaku_.pdf
<https://www.bis.gov/press-release/commerce-further-restricts-chinas-artificial-intelligence-advanced-computing-capabilities>
<https://www.bis.gov/press-release/department-of-commerce-revises-license-review-policy->

semiconductors-exported-china

[比較対象]

<https://openai.com/api/>

<https://openai.com/api/pricing/>

<https://openai.com/enterprise-privacy/>

<https://chatgpt.com/pricing/>

<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/overview>

<https://docs.anthropic.com/en/docs/about-claude/pricing>

<https://www.anthropic.com/legal/commercial-terms>

https://www.rd.ntt/research/LLM_tsuzumi.html

https://www.rd.ntt/ai_tech/about_tsuzumi.html

<https://www.nttdata.com/jp/ja/lineup/tsuzumi/>

<https://www.fujitsu.com/global/about/resources/news/press-releases/2024/0930-01.html>

<https://www.fujitsu.com/global/about/resources/news/press-releases/2025/0416-01.html>

<https://documents.research.global.fujitsu.com/domain-specific-ai/>

1 5 6 <https://jpn.nec.com/techrep/journal/g23/n02/230203.html>

<https://jpn.nec.com/techrep/journal/g23/n02/230203.html>

2 10 40 46 https://jpn.nec.com/press/202409/20240918_04.html

https://jpn.nec.com/press/202409/20240918_04.html

3 8 17 18 22 33 34 36 45 https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_01.html

https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_01.html

4 29 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>

7 20 https://jpn.nec.com/press/202312/20231215_02.html

https://jpn.nec.com/press/202312/20231215_02.html

9 48 https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_02.html

https://jpn.nec.com/press/202404/20240424_02.html

11 https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_02.html

https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_02.html

12 35 https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_03.html

https://jpn.nec.com/press/202411/20241127_03.html

13 https://jpn.nec.com/press/202504/20250423_01.html

https://jpn.nec.com/press/202504/20250423_01.html

14 https://jpn.nec.com/press/202508/20250827_02.html

https://jpn.nec.com/press/202508/20250827_02.html

15 41 <https://www.sakura.ad.jp/corporate/information/announcements/2025/12/02/1968222225/>

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/information/announcements/2025/12/02/1968222225/>

16 37 38 42 <https://jpn.nec.com/press/202604/images/2402-01-01.pdf>

<https://jpn.nec.com/press/202604/images/2402-01-01.pdf>

19 <https://jpn.nec.com/LLM/index.html>

<https://jpn.nec.com/LLM/index.html>

21 23 <https://openai.com/api/>

<https://openai.com/api/>

24 <https://docs.anthropic.com/en/docs/about-claude/models/overview>

<https://docs.anthropic.com/en/docs/about-claude/models/overview>

25 https://www.rd.ntt/research/LLM_tsuzumi.html

https://www.rd.ntt/research/LLM_tsuzumi.html

26 <https://www.fujitsu.com/global/about/resources/news/press-releases/2024/0930-01.html>

<https://www.fujitsu.com/global/about/resources/news/press-releases/2024/0930-01.html>

27 43 https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20260331_1.pdf

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20260331_1.pdf

28 32 44 <https://openai.com/enterprise-privacy/>

<https://openai.com/enterprise-privacy/>

30 39 https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/

https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/230602_AI_utilize_alert/

31 <https://www.meti.go.jp/policy/ampo/securityexportcontrol1.html>

<https://www.meti.go.jp/policy/ampo/securityexportcontrol1.html>

47 <https://jpn.nec.com/LLM/cotomi.html>

<https://jpn.nec.com/LLM/cotomi.html>